

令和2年度 学校教育自己診断 分析・考察

◎学習指導等

- ・授業力向上について、自己診断アンケート（教員）の「授業力向上のため、工夫、改善に努めている」が肯定的回答 73%と高い結果であった。新カリキュラム導入や観点別評価の更なる理解に向けて、この動きを更に加速させる必要がある。
- ・自己診断アンケート（生徒）の「授業がわかりやすい」は、肯定的回答が1年 74.2%、2年 59.4%、3年 71.6%と2年生の理解度が低い。これは毎年の傾向で、1年時は習熟度別少人数授業を行っているため、進級して40人の授業に戸惑うことが原因と推察される。このギャップを改善することは課題である。

◎生徒指導等

- ・遅刻者数については横ばい状態で目標が達成できていない。ただ、厳しい指導で改善していくというより、部活動加入率の向上（R1：40%→R2：45%）や、自己診断アンケート（生徒）の「学校へ行くのが楽しい」が69.9%、このあたりの数値を向上させることにより、結果的に遅刻者数等も改善が可能であると考ええる。
- ・自己診断アンケート（生徒）の「困った時相談できる先生がいる」が63.1%（R1：53.6%）と上昇している。また、自己診断アンケート（教員）の「生徒の意見をよく聞く」も94.6%と非常に高い。相談体制は充実していると考えるが、逆に「ここ数年、メンタル面で課題を抱える生徒が増えてきている」と言える。スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等外部人材とも連携して、生徒相談体制を更に充実させる必要がある。

◎学校運営

- ・ストレスチェック集団分析結果の「職場の健康リスク」値は、年々向上している（H30：107、R1：97、R2：90）。特に今年度は人事異動により部活動指導や分掌業務で他校経験が豊富な教員が増えたことが要因と考えられる。
- ・自己診断アンケート（教員）の「組織的に学校運営が行われている」は56.7%（昨年68.0%）と肯定的回答が減少した。業務の整理と適切な分担を進めてきたが、今年度は臨時休業のため勤務日数等も少なくなり、管理職や運営委員会でスピード感を持って決定遂行していく必要があったためであると考ええる。次年度は改善を進める必要がある。